



ふたはの桂

京都府大広報 No.179 | 2017.3

KYOTO PREFECTURAL UNIVERSITY



特集 京都学・歴史館が北山にオープン

CONTENTS

地域連携・地域貢献	4	地域連携・地域貢献	5	地域連携・地域貢献	6
和食文化研究	7	国際交流	7		
各学部・研究科の取り組み	8	文学部	8	公共政策学部	8
受賞情報	10	受賞情報	11	ニューフェイス	11
				退職教員からのメッセージ	12

<http://www.kpu.ac.jp>

地域連携・地域貢献

■京都府立大学地域連携センター学生部会かごらより —活動紹介—

昨春に、京都府立大学法人理事長賞を受賞して以降も、地道に日々の活動を続けています。



主な活動である「かごらカフェ」は、地域の方々と京都府立大学の学生との交流の場です。さまざまなクラブやサークルの協力のもと、毎月1回カフェを実施しています。28年度はこれまでに13回開催し、4月の初めには植物園でのお花見、11月には流木祭での開催等、様々な企画を実施し、3月末には北山地域のお祭りである北山あおいフェスティバルでかごらカフェを開催、おなじみのカフェでゆったりしていただいたり、今までカフェに来たことのない方とも交流することが出来ました。

10月には、「KYOのあけぼのフェスティバル2016」のイベント「男女共同参画推進のための世代間

交流ワールドカフェ」に参加しました。男女共同参画の現状について学んだあと、「職業生活と家庭生活の両立」をテーマにグループに分かれ気づきや意見を共有しました。

11月には「あすのKyoto・地域創生フェスタin京都府立植物園」で、本学の地域貢献活動PRのお手伝いをしました。「かごら」の活動紹介をはじめ、地域貢献型研究(ACR)の研究成果についての説明や、附属農場の農産物の販売などを行いました。いろいろなNPOや青少年団体の取り組みを知るよい機会にもなりました。

今後も、かごらカフェ事業を通じて知り合った社会福祉協議会の方や京都府職員の方など、様々な方々の助言を頂きながら、活動を広げられるよう頑張ります。

あすのKyoto・地域創生フェスタ
in京都府立植物園にて
小沢地域連携センター長と

■地域創生COC+教育プログラム

黒谷和紙づくりを体験 地域創生フィールド演習「トライアル版」

平成28年度からスタートした「地域創生COC+教育プログラム」では、京都府中・北部地域の自然や文化を活かして様々な生業を営んでおられる「地(知)の案内人」を訪ねて学ぶ「地域創生フィールド演習」を平成29年度から実施することとしていますが、その「トライアル版」として平成28年12月23日に綾部市内で模擬演習を実施しました。

「地(知)の案内人」である黒谷和紙協同組合理事長の林伸次氏を講師に、黒谷和紙の原料となる楮(こうぞ)の刈取り作業や手すき和紙の工程の見学、手すき和紙体験などを行いました。参加した学生たちは和紙の原料となる楮を見るのも初めてで、感想をきいたところ、「楮作りの担い手がいなくなり、現在は保存会の人たちのボランティアによって行われていることを知った。紙漉きに至るまでの原材料作りの大変さが良くわかり貴重な体験ができた。来年も演習としてぜひ来たい」と話してくれました。



黒谷和紙体験(綾部市)

「京都の地域創生」ではテレビ会議を使った講義を実施

「地域創生COC+教育プログラム」の1回生を対象とした講義「京都の地域創生」では、第6回から第12回の7回にわたり、テレビ会議システムを使って地域と講義室とを中継でつなぎました。南丹市美山町、福知山市三和町、宮津市、伊根町、舞鶴市、京丹後市の各地域の「地(知)の案内人」の皆さんから講義室の学生に、自己紹介や地域創生フィールド演習の企画内容などを説明していただきました。学生からは日替わりカフェや漁業体験など演習内容についての質問があり、「地(知)の案内人」の皆さんからは、地域づくりにかける思いや学生への期待などが語られました。学生のレポートでは、「テレビ会議では地域の方のお話を直接聞けて良かった」、「地域の人たちの元気に驚いた」といった感想が多く寄せられました。



テレビ会議システムを使った講義



宮津市上世屋の「地(知)の案内人」の皆さん